

CLUB NEWS

vol.
1259

2020・2021
MEETING

2020-2021年度国際ロータリーテーマ
ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー第2800地区 第5ブロック

山形中央ロータリークラブ

新たな試練を機会に、ロータリアンとして創造力と柔軟性で乗り越えよう!

〒990-0031 山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社社務所ビル2F TEL(023)632-7777 FAX(023)624-5200

例会 毎週火曜日12:30~13:30(但し第5週は18:30~) 会場 ホテルメトロポリタン山形

- | | | |
|-----------------|----------------|--------------------------|
| ■ 会長 小林 敏 郎 | ■ 職業奉仕 佐竹 純 一 | ■ 副 幹 事 佐藤 太 |
| ■ 会長エレクト 長橋 正 人 | ■ 社会奉仕 小泉 俊 哉 | ■ 会 計 深瀬 隆 志 |
| ■ 副 会 長 石山 徳 昭 | ■ 青少年奉仕 相川 博 昭 | ■ S A A 川 合 勝 芳 |
| ■ 直前会長 伊藤 和 子 | ■ 国際奉仕 中川 清 美 | 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク(ドイツ) |
| ■ クラブ管理運営 長谷川 淳 | ■ 幹 事 玉ノ井 憲 史 | 第2800地区ガバナー 齋藤 榮助(米沢中央) |
| | | 第5ブロックガバナー補佐 北門 一忠(上山) |



ロータリーは機会の扉を開く

◆日時/2021.6.8 12:30 ◆例会場/ホテルメトロポリタン山形

会長挨拶



みなさん、こんにちは。コロナワクチン接種が徐々に進み、会員の中にも1回目の接種を終えられた方が多いのではないのでしょうか。まずはおめでとうございます。先週はお休みとさせて頂き、6月最終理事会開催致しました。コロナ対策を再確認し、残り3回、計画通り進めさせて頂きます。どうかよろしくお祈りします。今日は三人のお客様がいらしておりますので、ご紹介させて頂きます。直前ガバナーの久保章宏さんです。山形ローターアクトクラブ会長のサインバヤル・ハンガイバヤルさんです。同じく新会長のアナー・ガリドさんです。この後、ご挨拶を頂きますのでよろしくお願い致します。また本日の卓話は継続して会員卓話としており、阿部会員にお願いしております。食事後、どうかよろしくお祈りします。

さて、2020-21年度2800地区大会が6月5日に開催されました。コロナ禍の中、無観客として、Zoom参加とYouTubeライブ配信となりました。久保直前ガバナーは米沢の会場にて大役を果たされました

が、参加者の熱気も高まり40分オーバーの大会となりました。記念講演は、「ポストコロナ ロータリーもSDGsでチャンスを作ろう」と題して、東京RCパストガバナーであり、ミズノ株式会社相談役会長の水野正人氏の講演でした。コロナ禍のあとの世界において、持続可能な社会の実現に向けて、ロータリアンも健康や環境をキーワードとした職業奉仕を通じて、新しいことに取り組むことが大切だと。また、過去オリンピック勝者は、伸び伸びしている人が力を発揮していたという共通点があり、明るく朗らかに、いろいろな事を考えて、活動的に動くことがチャンスをつかむのではないかと、語ってくれました。

個人的には、RI会長代理菅原裕典(ひろのり)氏が、義理人情でロータリーに入る時代ではない、新しい仲間が入りたいと思える魅力のあるクラブ作りをしなければならぬという講評が印象に残りました。私の任期も1ヶ月を切ったこの時期に、Zoom参加の地区大会、一年を振り返る機会を得た大会だったと思っております。

台北永楽RCよりコロナワクチンのお礼状が届いております。最後に、その内容をご紹介します。

それでは、今日もどうかよろしくお祈りします。

本日出席・修正出席

	会員総数	出席義務出席数	出席会員数	出席率
本日出席	38名	—	27名	—
修正出席				
他クラブでメイクアップされた会員				



山形ローターアクトご挨拶

大久保章宏 直前ガバナー

山形ローターアクトクラブ

サインバヤル ハンガイバヤル 会長
アナー ガリド 次年度会長

皆様、こんにちは！山形RACのハンガイです。本日はこのように年度末のご挨拶機会を頂き、山形中央RCの皆様とお会いできたことを非常に嬉しく思っております。

山形RACは昨年の8月19日に正式に活動を開始されたから約10ヶ月となっております。活動内容に関しましては、4月の年次大会で皆様にご報告した通りとなります。現在、当クラブは正会員11名、名誉会員1名、計12名で活動を進めております。今年度開始の時に、私の方から年度ターゲットとしまして3つほど皆様に申し伝えました。

まずは、国際貢献・国際交流です。現在、山形RACは会員数200名のモンゴルのローターアクトクラブと3つのプロジェクトでコラボレーションし、協力しております。例として1つ申し上げますと「Mentorship」プロジェクトです。当クラブでは、日本で留学経験者は多数いるため、会員各個人の経験やノウハウを伝えていく「メンターシップ活動」です。後は、「必要のないものを、必要のある人に」といったスローガンの下で「CareBox」プロジェクトと「国立学校の図書館のリニューアル」との3つのプロジェクトでお付き合いしております。次は、韓国・中国・ベトナムとの国際交流・貢献を図ってまいります。

二つ目は、ロータリーの目が行き届かないところでの力になることを望んでいましたがコロナウイルスなどの影響により思ったほど活用はできなくて非常に残念に思っております。大きく反省して、次年度はロータリアンの皆様とより深く活動なり交流が出来たらと思います。

三つ目として、にぎやかなクラブにすることでした。山形RACの設立時に、月1回オンライン、1回対面の例会を

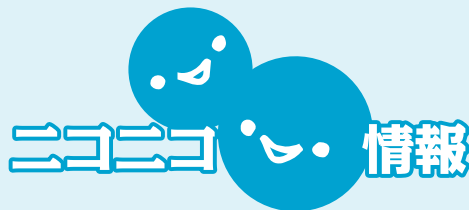
予定していましたが、コロナの影響を受け12月からすべてをオンラインで開催しております。リモートにもかかわらず、現段階では出席率は毎回80%を超えており、非常に嬉しく思っております。

最後に、私は高校生の時、モンゴル発のインターアクトクラブに所属しており、会計の役割を任されていました。当時予算がなかったため、慈善コンサートをみんなで企画し、たくさんのご来場者のご出席を頂きました。集まったお金を「孤児院」に寄付した経験があります。インターアクトクラブで経験・体験したことが様々な場面で私にプラスとなり、日本での留学受験の時に大きく影響がありました。現在も、山形ローターアクトクラブでは会長の役割をさせて頂いていることで、将来経営者目指している私には巨大な勉強になっていることに間違いはありません。

本日は、皆様に紹介するために当クラブ単独作成の 프로모ーション動画を準備して参りました。皆様に是非ご覧して頂きたいと思っております。

この一年は、山形中央ロータリークラブの皆様のおかげさまで、新しくできた我々は最高に勉強なり成長することができたと思っております。本日は、次年度会長ガリド副会長と一緒にご訪問させて頂きました。私は、ガリド会長を隣からしっかりと支えていくつもりですので、次年度も山形RACとガリド会長のこと、どうぞ宜しくお願い致します。

以上がご挨拶となり、山形RACを代表致しまして、小林会長をはじめ、山形中央ロータリークラブの皆様へ深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



相川博昭／阿部さんすばらしい卓話ありがとうございました。私事ですが、本日初孫が誕生しました。感謝です！！

玉ノ井憲史／本日は、大久保直前ガバナー山形ローターアクトクラブハンガイ会長、ガリド次年度会長ご訪問ありがとうございます。本日も多くのたくさんの会員出席ありがとうございました。

小林敏郎／本日は、大久保直前ガバナー、山形ローターアクトクラブのハンガイ会長、ガリド次年度会長、ご訪問ありがとうございます。また、阿部美春さん、卓話ありがとうございました。



会員卓話

「生きざまを糧に」 ～遺志を繋いできた人生観～

阿部美春 会員

* かけがえのない亡き二人のこと

創業者

- ①2つの棒
- ②「創」の意味
- ③時代おくれ 月～
- ④「世の人は我を何とも言わば言え 我がなすことは我のみぞ知る」(坂本龍馬)
- ⑤「やってやれないことはない～」(平櫛田中)
- ⑥「道」の詩
- ⑦自灯明 法灯明

部下

- ⑧宝の言葉

* まとめ

- ⑨「人は一生のうち出会うべき人に必ず出会える
しかも一瞬遅すぎず 一瞬早すぎず」(森信三)
- ⑩「絆」という字と「亡き人との絆」とは…
- ⑪「使命、その全てを果たしてからでなければ死ねない」(ベートーヴェン)

平成25年12月に山形中央ロータリークラブへ入会させていただきました。翌月の1月に新入会員卓話でお話をさせていただいて以来、実に7年5か月ぶりの卓話になります。緊張します！45分原稿を20分削除し、繋ぎあわせながら25分原稿にまとめました。「いかにも繋いだ！」と思うようなところもあるかと思いますが、精一杯お話をさせていただきます。

今日は私が職業を通じて得られた今は亡き会社の創業者と部下のお話をさせていただくことにしました。何故なら、彼らのお陰で今の私があります。私の土台、原点でもあるからです。坂村真民さんがこんな言葉を残しております。「最高の人というのは、この世の生を精一杯、力一杯、命一杯、生きた人だ」とっております。今日お話をさせていただくお二人は、私にとって人生の道標となる生きざまを残してくれた最高の二人です。今日の話の中で何か一つでも心に残り、私の人生観に共鳴していただければ幸いです。

はじめに、私に大きな影響を与えた創業者、氏家社長のお話しに入りたいと思います。とても器の大きな人でした。今から16年前、癌により54歳の若さで亡くなり

ました。人の心をつかみ、つかむというより驚掴みされるような感じで、人の使い方に優れ、忍耐の人でもありました。また、怒る時は本気でグローブのような手で歯を食いしばらせ殴ることもありました。反面愛情深く、思いやりのあふれた父親のような存在で、一例をあげるならば、結婚式を数週間に控えていた私の上司が、突然破局となり、みるみる痩せておかしくなっていくのを目(ま)のあたりにした私は氏家社長に電話で話しました。当時なかった言葉ですが、今で言う、うつ病になったのだと思います。氏家社長は彼を自分の生家に連れて行き、約一週間共に過ごし、山形へ戻ってきた上司の顔には明るさが戻っていました。社員一人一人を家族のように接してくれた社長がいたことを誇りに思います。

何をするにも豪快で前向きな社長で、飲食の思い出も沢山あります。飲みに行くと金額に糸目を付けずとことん飲ませ食べさせてくれました。氏家社長が亡くなってから一度も会社で使ったことはありませんが、スズラン街にある佐五郎で最高のお肉を何度か食べにいったことがあります。すき焼きを食べたいという人、しゃぶしゃぶを食べたいという人、ステーキを食べたいという人、1つに決めるのを迷っている社員を見て、皆さんならどうしますか？それを見ていた氏家社長は「全部食べればいいじゃないか。最初しゃぶしゃぶ前菜にして、ステーキメインか、最後はすき焼きで締めればいだろう」と。そんな贅沢、金額も金額なだけに一瞬戸惑った私たちに「お前たちが頑張ってくれているからうまいものも食べれる。どんなことでも手の届かないことはないんだ」そう話してくれました。

そんな氏家社長は、お金に苦労がない社長だと思っていましたが、ある日、私がまだ20代前半の頃、事務所まで二人になった時こんな話をしてくれました。「俺は2つの棒に支えられて生きてきた。貧乏と辛抱だ。」その一言に苦労人であることを感じ、数年後、創業当時から勤めていた事務の方から氏家社長の苦労話を教えていただきました。

ところで皆さんは創の字の意味をご存知でしょうか？一つの事業を起こすことを創業と言います。一つの道を切り開くことは創始と言います。この創には傷をつけるという意味があります。辛さ、苦労無くして創業は成しえないということです。氏家社長も創業当時、トラックに穴が開けばガムテープをはり、ホテル代を節約してトラックを寝床としていたと聞きます。真冬でも隙間から入る風雪に耐え、毛布一枚に身をくくめて走り回っていたそうです。

そんな氏家社長から教わったことは沢山あります。今思えば、私は二十代の頃、小さいことによくよしたものです。氏家社長はどれだけ大きな問題に直面していようと、自分のことを後回しにして社員の小さな愚痴にも耳を傾け、話を聞いてくれたものです。氏家社長の十八番(おはこ)でもありましたが、そんな歌の歌詞があります。河島英五さんの「時代おくれ」です。二番の歌詞に「あれこれ仕事もあるくせに、自分のことは後にする」とあります。また、「目立たぬように、はしゃがぬように、似合わぬことは無理をせず。人の心を見つめ続ける時代おくれの男になりたい」とありますが、そんな歌詞を地であった社長でした。人の心を見つめ続けるのが時代おくれの男であるなら、私も時代おくれの女でありたいと思います。そんな氏家社長に人の話にくよくよしていた私

が言われた言葉は「人が何と言おうと、人の口に戸は立てられない。言いたい人には言わせておけ。おまえは常に潔白であれ」今思うと坂本龍馬の有名な一言でも表せると思います。「世の人は 我を何とも言わば言え 我がなすことは 我のみぞ知る」人に何と言われようと自分のすることは自分が知っている。自分を信じること。

また、二十代の頃、氏家社長によく無理難題を言われたものです。例えば法務局に提出する役員変更や増資の書類作成など、正直に「わかりません」、「できません」という私が言われた言葉は「やりもしないで出来ないってことがあるか！！お前がやらなかったら誰がやるんだ！！」やりもしないで出来ないってことがあるか。お前がやらなかったら誰がやるんだ。死人に口なしと言いますが、氏家社長からもう直接言葉をもらうことができません。でも、数年前ある言葉を目にした時、氏家社長から直接エールが送られてきたかのようにハッとしました。その言葉はご存知の方もいらっしゃると思いますが、100才の時に30年分の材料を買い込んだ彫刻家平櫛(ひらくし)田中(でんちゅう)氏の言葉です。先ほどの氏家社長の言葉に相通じるものがあります。こんな言葉です。「実践実践また実践 挑戦挑戦また挑戦 修練修練また修練 やってやれないことはない やらずに出来るわけがない 今やらずしていつできる わしがやらねば誰がやる やってやってやり通せ」皆さん、氏家社長と平櫛田中氏の言葉、「お前がやらなかったら誰がやるんだ！！」「わしがやらねば誰がやる」自分がやらなかったら誰がやるかと覚悟すること。それが若かりし頃、私が氏家社長から学んだことの一つであり、今わかることは、その覚悟が自分を奮い立たせる勇気となり、周りの景色を変える行動の原点であり、努力を確実にするものであるということです。

その氏家社長が病室から私に最後に電話口で言った言葉が三つあります。皆さんは死を間近にした時に社員へどんな言葉をかけると思うのでしょうか？氏家社長は私に三つのことを言いました。一つは私への感謝の言葉、二つ目に三拠点の和、そして呼吸も途切れ途切れになりながらも声を振り絞って最後に「頼んだぞ！」この言葉が私が聞いた最後の言葉でした。私は遠くからか細く、でも力強く発する氏家社長の言葉を聞き漏らしたくなく、受話器を耳に強く押しあてて聞きました。私への感謝の言葉を姿にあらわし、頂いたものがあります。それがこの石のお地蔵様です。亡くなる最後の電話で氏家社長が私に話した一つ目の感謝の言葉というのは、私にか細い声でこう話してくれました。「渡したお地蔵様、お前に対する俺の感謝の姿だ。ありがとう」最初自宅へ

飾っておりましたが、亡くなってからは会社に持って行き、私の見える場所に置いています。それから二つ目の三拠点の和というのは、山形・仙台・登米市と3つの拠点がありますが、私が入社した当時、よくここまで個性的な人達が集まったものだと感じたくらい、皆、我が道を行くタイプの人達ばかりでした。飲んで席で喧嘩もあれば、「スコップで掘って埋めてやろうか！」など、身内はもしやヤクザモンでは？とってしまうような会話を耳にしていました。三拠点どころか拠点内もさまざま状態でした。そんな中で氏家社長亡き後、どうやって丸くおさめていくべきか、頭で考えるというより無我夢中に本気でぶつかりあっていました。一人はみんなのために みんなは一人のためにという言葉があるように、相手を思う心の大切さ、一人のために悩み、時には励まし合いながら共に進んでゆくこと、氏家社長が社員一人一人のためにしてくれた恩に報いるためにも、今バラバラに行動していたら会社が無くなってしまふ。団結しなければいけない。迫(はざま)三拠点が一枚岩となって行動しなければ、氏家社長が苦勞して築きあげた会社を一代で無くしてしまうと思いました。氏家社長は業界の裏のドンとして中央にも名を馳せていましたが、私たち一人一人はあまりに小さく、力がない状態です。でも団結は個人の力を結集し、決して1人では成し遂げられないことでも完遂させる力を持っています。あの頃は、アントニオ猪木氏が引退式で話した「道」の詩(し)の心境でした。こんな詩です。「この道を行けばどうなるものか 危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし 踏み出せばその一足が道となり その一足が道となる 迷わず行けよ 行けばわかるさ」人生には様々な道があります。先、未来がわからない道は不安です。しかし一歩踏み出すことにより未来が現実、現在になります。不安におびえてあきらめるよりは勇気を出して踏み出す方が人生に幅や奥行きが出るものです。何より大切なことは何をしたかではなく、何のためにどんな思いで過ごしてきたかが重要ではないでしょうか。亡くなってから、様々な問題をどうやって乗り切るべきか悩んだ時はよく氏家社長ならどうしただろう？そんな風に自然と考えていました。皆さんもそんな経験ないでしょうか？壁にぶつかった時、自分の師匠なら、あるいは父親、尊敬する人ならどうやって乗り越えるのか？藁をもつかみたい思い。私は氏家社長に思いめぐらせ解答を求めていました。でも今は違います。今は違うんです。きっと、きっと、私がすることを氏家社長もしている！！そんな風に自信を持って行動しています。伊達政宗を幼少時から育てた禅師の教えの基礎である「自灯明 法灯明」の言葉にも通じます。

この言葉はお釈迦様が往生を迎えられた時、弟子たちが誰を頼りにしていけば良いかに対して語られた言葉です。自らを灯明とし、自分自身を頼りとする。つまり自分を確立せよと教えられたわけです。それから三つ目の頼んだぞ、最後の言葉は氏家社長が宮城の本社に出勤時、毎朝山形へ電話をかけ、必ず最後に話す言葉でした。私は平成6年に入社したので、氏家社長が亡くなるまでの約11年間、休み以外毎日聞いていた言葉です。でも、その時に聞いた言葉は重く、強く心に響きました。亡くなる最後に話す言葉を毎日話していたことに、改めて氏家社長のすごさを実感しました。

私の会社の社員は私もそうでしたが、氏家社長の人柄が好きで入社していた人がほとんどでしたので、氏家社長亡き後、辞めた人たちが沢山います。でも私はかつて創業当時の様々な苦勞話を教えてくれた人がいたように、新しい若い世代にも私が教え繋げていかなければいけないと思いました。私は今、氏家社長の築いた会社、従業員とその家族をどんな苦勞もいとわず守って守って守り抜くつもりです。一歩外に出れば男も女も戦場だと思っています。毎日が一本の細い糸の上を歩いているかのような真剣勝負です。時に頭を下げなければならない時があっても、こんな頭を下げて社員を守れるならどこへでも！そんな気持ちでいます。守って繋げていくこと、それが亡き氏家社長の遺志を継ぐことであり、電話口で感じた重みは責任ですが、この世に生を受けた私の使命の一つとも思っています。

そんな気持ちで夢中に走り続け、気が付くと氏家社長が亡くなってから五年の月日が流れておりました。2010年です。ふと社内新聞を発行してみようと思いました。三拠点ある中、普段全員との交流は難しいものです。でも縁があって同じ職場で苦樂を共にしております。そんな仲間のことをもっと知り、皆で一つの同じ方向を見ていきたい、そんな思いが新聞発行に至りました。掲載内容は私の人生そのものです。五年ほど前、知人から私の思いを本に纏めることを進めていただきました。その思いを形に残したものが、この「心 天までとどけ」の本です。氏家社長も天国で読んでくれていると思っております。

氏家社長は座右の銘ならぬ、私にとって座右の人です。つまり私が目指す理想であり、くじけた時の希望であり、常に信条とし、私を励まし、過ちを犯さないよう戒めとなる人です。

次に7年前に心筋梗塞で39歳の若さで亡くなった部下についてお話をさせていただきます。普段は言葉が少ないのですが、気持ちの優しいあつい心を持った部下で

した。彼が工場の主任となり会議に出なければならない立場になったある日、同じ工場の社員から彼がスーツを持っていないことを聞きました。普段は上下つながった作業着を朝から晩まで着ており、パチンコ店が閉店してから納品や設置など裏方の仕事をするため、会議以外はスーツを着る機会がありません。彼の誕生日は7月10日でした。私は全員に誕生日プレゼントを渡しております。そこで彼にスーツをプレゼントすることに決め、前日の9日のお昼休み空けておくように話しました。そして翌日私は彼を車の後ろに乗せ、目的の場所へ着き、彼に好きなスーツを選ばせました。「昇進祝いと誕生日祝いだから」と話すとき、恐縮しつつ選び始めました。少し離れてみると、値札を一生懸命見ながら選んでいる姿が目に入ります。近づいて「金額、気にしないで気に入ったのを選んでほしい」と話し、中に着る半袖、ワイシャツも購入し、スーツにはネームを入れてもらいました。翌日の誕生日、帰り際に主任を呼び手渡すと、彼はスーツの入った袋を強く抱きかかえ、「専務、一生もんです。大事に着ます。有り難うございます！」と私の車が見えなくなるまで見送ってくれました。かど送りは三拠点、今でも受け継がれています。翌月の八月、玄関の戸を開けたまま主任が立っていました。一瞬なんで入ってこないのかと思いきや、プレゼントしたスーツを着ていたんです。その日私は諸用があり、仙台での会議に出席できず会社に残りました。玄関に立っている主任に「似合ってるね、会議頑張ってきてよ」と送り出しました。そしてさらに翌月九月の会議の日、私も主任も用事で会議に出席できないため、二人で初めてお昼にラーメンを食べに行く約束をしていました。その日の朝、主任の母親から電話が来て、亡くなった知らせを受けました。火葬の日「一生もんです」と言ってくれたスーツを棺の中に私の手に入れました。一回だけでしたが着てもらえて良かったと思っています。その主任が亡くなって2.3週間後に会いに来てくれました。会社に誠心誠意尽くしてくれた主任に感謝の言葉も伝えられなかっただけに、会いに来てくれたことが凄く嬉しかったのですが金縛り状態で……。そこで強引に振り切ろうとしながら、「有り難う、有り難う、有り難う……」と声にならない声で何度も何度も叫んでいると、「専務、また無理して」そんな顔をしつつ、はにかんだような笑顔を見せて消えました。葬儀などの席で主任の従妹や母親に「あなたが阿部専務さんですか？数年前に不規則な生活になる今の会社を辞めて違う会社に変えた方が良く進めたことがあります、阿部専務に恩を返すまでは辞められない！」と書いておりました。大変お世話になりました。」と深く頭を下げられまし

た。この言葉は私を教え育ててくれた氏家社長がいたからこそ得られた、私にとって大切な宝の言葉です。

氏家社長が癌になってから私に「おい、係長。NTTに電話して、あの世とこの世の電話回線を繋げておいてもらおうか」と、笑顔で話していたことが思い出されます。もし叶うなら、1日、いや3分だけでもいいので、あの世と話せる電話が欲しいです。二人と話し、その電話が終わった後でもいつも聞くことが出来るように録音しておきたいです。それから閻魔(えんま)大王にもかかわってもらい、私があつた世へ行く時には、日本酒を手土産に持って行くので、二人を連れてきてもらい、一緒に酒盛りの予約もしておきたいものです。

二人のことを思う時、思いが募りせつなくなります。どれだけ大きな存在であったか縁の深さを感じます。共に過ごした時間、場所、励まされたり、叱られたり……数えきれない思い出に支えられ今の私があります。森信三氏の言葉に「人は一生のうち、出会うべき人に必ず出会う。しかも一瞬遅すぎず、一瞬早すぎず」という言葉があります。早くも遅くもなく、今だからこそ出会うべき人と出会えたと思うならば、すべての出会いに無駄はなく、感謝の気持ちで一杯になります。改めて一期一会の大切さを実感します。

人生は人と人との縁の連続です。だからこそ人との出会いを大切にしなければなりません。夫婦、あるいは会社一つをとっても、数ある会社の中、縁があって共に働き、喜怒哀楽苦勞を分かち合い、共に成長しあいながら絆を深めています。「絆」という字は半分の糸と書きます。人と人が強く、時には優しく繋がっていることだと思います。「亡き人との絆」を考えるならば、それは別れた悲しみから抜けきれないということではなく、亡くなってからも亡き人との絆が残されている人達の縁で繋がっていることです。巡り合えたことに感謝しつつ、亡き人たちとの絆を大切に、遺志を受け継いでいきたいと思えます。

季節が巡り幾年月が過ぎ去ろうと、心の中では色あせることはありません。今の私はL.V.ベーターヴェンが残した言葉をかりるならば、「使命、その全てを果たしてからでなければ死ねない」そんな気持ちで日々過ごしております。

私たちはこれから先、辛いこと、大切な人の死、絶望など避けようのない道も歩んでいかなければいけません。耐え忍ばなければならない時は、大地に命の根を深く伸ばし、先人達が教え導き照らしてくれる太陽のもと、感謝の気持ちからたとえ小さい花でも独自の花を咲かせていきましょう。ご清聴ありがとうございました。